

(23)

氏名(生年月日)	ス 勝	ロ 呂	マモル 衛
本籍			
学位の種類	医学博士		
学位授与の番号	乙第949号		
学位授与の日付	昭和63年6月17日		
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当(博士の学位論文提出者)		
学位論文題目	Clinical evaluation of laser endoscopy for the treatment of gastric tumors (胃腫瘍に対するレーザー内視鏡治療の臨床的検討)		
論文審査委員	(主査) 教授 羽生富士夫 (副査) 教授 小幡 裕, 教授 白坂 龍曠		

論文内容の要旨

目的

高齢化社会の出現により、重篤な合併症を有する胃癌患者が増加しこれに対する非手術的治療が待たれていた。最近、ようやくレーザーによる内視鏡治療が可能になってきた。本論文は胃腫瘍に対してレーザー治療を行いその成績から本治療法の有効性、根治性を研究したものである。

方法

1) レーザー装置：Nd-YAG レーザーおよび Argon-Dye レーザーの2種類のレーザーを用いた。

2) 照射条件：Nd-YAG レーザーでは直接に熱エネルギーで組織の破壊を行い、光化学反応を利用する Argon-Dye レーザーでは、腫瘍親和性物質ヘマトポフィン誘導体を経静脈的に投与、48時間後にレーザー照射した。

3) 観察方法：レーザー光にて腫瘍全体を焼灼後、内視鏡検査にて経過観察を行った。

4) 対象：1980年12月より1986年4月までに胃癌60症例、胃異型上皮10症例および胃ポリープ14症例にレーザー照射を行った。胃癌症例は高齢者や重篤合併症を有する手術不能例および手術拒否例である。

結果

1) 胃ポリープ：14症例のポリープ、ポリポージスに Nd-YAG レーザー照射を行った、全例ポリープは消失し1～5年間の期間、再発は1例も認めていない。

2) 胃異型上皮：10症例の異型上皮症例に Nd-YAG

レーザーを照射した。全例に異型上皮の消失をみた。2年10カ月～4年9カ月の期間、再発症例は経験していない。

3) 隆起型胃癌：17症例に Nd-YAG レーザー治療を行い、全例に有効で1カ月～4年9カ月の期間、1症例も再発を認めていない。

隆起型早期胃癌では Nd-YAG レーザー治療は非常に有効であった。

4) 陥凹型胃癌：11症例に Nd-YAG レーザー治療を行った。いずれの病巣も消失したと考えられたが、1カ月～4年9カ月の期間で再発症例が6症例(55%)認められる。

5) Argon-Dye レーザー：陥凹型胃癌4症例に照射した。1年間経過し再発症例はなく陥凹型胃癌には有効であると判断される。

6) 合併症：照射後の出血を2症例経験した。

考察および結論

以上の結果から次のような結論を得た。

1) 胃ポリープ、胃異型上皮は Nd-YAG レーザー治療にて完全に治癒が可能である。

2) 隆起型早期胃癌は Nd-YAG レーザー治療が極めて有効であり、1例も再発を認めなかった。

3) 陥凹型早期胃癌は Nd-YAG レーザー治療では11症例中6症例55%に再発を認め、その効果は不十分であった。

4) Argon-Dye レーザー治療は陥凹型早期胃癌4症

例に行い、再発例はなく有効な手段であった。

5) 陥凹型胃癌の Nd-YAG レーザー治療は問題が多く Argon-Dye レーザー照射や粘膜切除法等の他の手技が必要である。

6) 胃癌は早期胃癌といえどもリンパ節転移の可能性が常にあるので、これを念頭におき内視鏡治療の適応は慎重に考慮する必要がある。

論文審査の要旨

本研究は、レーザー光線を照射することにより、各種の胃腫瘍性病変を、内視鏡的に治療する試みで、扁平な隆起性病変は完全に治癒できること、また、早期胃癌に対しては、肉眼型に応じてレーザー光線の種類を選択することで局所治療が可能であることを明らかにした。さらに長期観察によって、レーザー内視鏡治療の臨床的評価を与えたことで学術上価値あるものと認める。

主論文公表誌

Clinical evaluation of laser endoscopy for the treatment of gastric tumors

(胃腫瘍に対するレーザー内視鏡治療の臨床的検討)

Surgical Endoscopy Vol. 1, No. 3, 131~138

頁 (1987年10月発行)

副論文公表誌

- 1) 胃底腺領域の IIc 型早期胃癌の内視鏡診断
胃と腸 22 (9) 1037~1046 (1987)
- 2) 十二指腸ポリープの病態と治療
消化器科 3 (5) 420~427 (1985)
- 3) 色素内視鏡の理論と臨床応用
日本臨床 42 (10) 2195~2200 (1984)
- 4) 十二指腸球部早期癌の 2 例
Gastroenterol Endosc 25 (12) 1962~1967 (1983)
- 5) 早期胃癌診断の現況
東女医大誌 50 (9) 820~829 (1980)
- 6) 胃の IIb 病変症例, その内視鏡像の特徴と分類の試み
胃と腸 16 (12) 1321~1324 (1981)
- 7) 2年間の経過を観察しえたスキルス の 1 例
胃と腸 15 (11) 1231~1218 (1980)
- 8) I 型早期胃癌手術後 7 年 11 カ月で再発死亡した 1 例, 早期胃癌切除後 5 年以上経過再発死亡例の検討
胃と腸 19 (7) 791~794 (1984)